

司会グループについて

「司会グループってどうやって決めればいいですか」学校支援に行くときよく質問されます。学級会において司会グループの存在は欠かせません。みんなの前に出て学級の中で役割を果たす経験は子供の学びにとってとても大きいです。しかし、先生方がどのように決めて、どのような指導をしているのか明らかにされていないことが多いです。このことが、学級会が敬遠されている一因になっている気がします。今回は司会グループについて解説したいと思います。前号と重複する内容もありますが、ご了承ください。

① 発達段階の差

「1年生で、どうやったら司会をさせられますか？」という疑問をもたれている方が多いのではないかと思います。学級会の司会は子供がするものという固定した考えがあるからだと思います。先ほどの回答としては「先生が司会をする」です。先生が子供からの意見を取り上げ、出た意見を板書したり、決定マークをつけたりするなど黒板書記も行います。徐々に学級会の進め方が分かってきたら、一つずつ学級会の役割を子供にゆだねていきます。1年生の終わりまでに何かしらの役割ができるようになるといいです。国立教育政策研究所のHPに「小学校特別活動映像資料」が動画視聴できますので、子供に司会のイメージを持たせるためにも非常に有効ですので、ぜひご活用ください。

② 司会グループの決定

前号でも紹介しましたが、司会分担表を年度当初に提示します。名前は番号順にランダムに入れます。もちろん、グループ内での交代は可能です。配慮を要する子供がいる場合は、必要に応じて支援学級担任や支援員さんと連携しながら指導に当たります。また、学級会当日に欠席している子供がいた場合は、5人で役割分担をします。

	司会	副司会	黒板	黒板	観察	記録
	あやな	たけし	みな	さとし	りょう	よしゆき
	まな	りんか	みお	こうき	まなと	たけし
	こうじ	りゅうき	けんすけ	まお	りお	かおり
	ともき	じゅんこ	こうが	なつこ	りん	みゆき
	とうま	まさゆき	えりか	ゆき	あおい	まさき

③ 司会グループの役割

学年によりますが、基本的に、教師は司会グループの近くにいます。話合いが始まったら、司会、副司会に対して助言をします。黒板書記が追い付かなかった場合は、必要に応じて教師が手伝います。

司会	全体の進行を担います。マニュアルに沿って進めていきます。
副司会	話合いになったら、司会の補助に入り時間を見ながら進めます。途中、話合いの本筋から逸れたり、混乱したりした場合には適宜止めて軌道修正するようにします。また、記録と連携し、だれが発表をしていないか確認します。
黒板書記	賛成、反対意見をまとめたり、短冊を貼ったり、動かしたりします。下学年だと友達の意見をうまくまとめることができませんので、支援が必要です。
観察	提案理由にそっていたか、実現可能なものであるか、みんなを納得させる意見なのかなど質的な発言の記録をとります。何をもって良いとするかの基準を教師から提示しても良いでしょう。
記録	だれが何回発表していたか量的な発言の記録をとります。

